



葉山浄化センター自家発電設備更新工事
 自家発電設備更新

公共下水道実施設計委託(その1)
 L=102.0m

葉山処理区支線築造工事(その1)
 L=48.0m

葉山処理区支線築造工事(その2)
 L=52.1m

葉山処理区支線築造工事(その3)
 L=166.1m

葉山処理区支線築造工事(その4)
 L=36.0m

葉山中継ポンプ場污水ポンプ更新工事
 1-1,1-2污水ポンプ更新

葉山中継ポンプ場自家発電設備更新工事
 自家発電設備更新

凡 例	
	令和8年度工事箇所
	令和8年度委託箇所
	令和7年度工事箇所
	令和6年度まで整備済区域
	事業計画区域(513ha)
	全体計画区域(513ha)

令和8年度 下水道事業(建設工事)箇所図

キャッシュ・フロー計算書 (C/F : Cash Flow statement) の解説

参考資料 2 / 4
 予算特別委員会
 下水道課
 令和8年2月26日

○『キャッシュ・フロー計算書』とは・・・？

令和8年度 葉山町下水道事業会計予定キャッシュ・フロー計算書 (間接法)

(令和8年4月1日から令和9年3月31日まで)

1 事業年度の資金収支の状況を、一定の活動区分別に表示した報告書です。

(単位 千円)

○『キャッシュ・フロー計算書』から分かることは・・・？

貸借対照表や損益計算書では、把握しにくい1事業年度(4/1~3/31)における現金預金の流れを、「業務活動」、「投資活動」、「財務活動」の3つに区分して表示することで、資金繰りの状況を明らかにし、経営の健全性や経営悪化などの判断が可能となるものです。

○『キャッシュ・フロー計算書』の読み方

葉山町下水道事業は、この分類に該当しています。

業務活動	投資活動	財務活動	経営状況(例)
	-	-	現在成功している会社 経常的な企業活動で生み出した資金を、健全に投資活動と財務活動に使っている。
+	+	+	資金は潤沢な会社 資金の使途が明確となっていない。戦略的な投資・買収に備えていることも考えられる。
	-	+	拡大指向の成長会社 本業務も順調であるが、財務活動により資金を調達し、積極投資を行っている。
	+	-	リストラ実施中の会社 借入金返済を優先し、将来的な投資活動を行っていない。
-	-	+	設立後間もない成長会社 借入・増資等による調達資金により、投資を行っている。
	+	+	資金不足を補っている会社 資金繰りがひっ迫しているため、資産の売却、増資等を行っている。
	+	-	本業不振の会社 保有資産の切り売りによって借入金の返済を行っている。
	-	-	倒産の危険性のある会社 過去からの剰余金等で、なんとかか生き残っている。

1 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	18,792
固定資産減価償却費	793,869
固定資産除却費	31,340
長期前受金戻入額	△ 411,254
引当金の増減額 (△は減少)	△ 820
受取利息及び配当金	△ 100
支払利息	86,031
未収金の増減額 (△は増加)	△ 6,590
未払金の増減額 (△は減少)	25,413
その他流動資産の増減額 (△は増加)	0
小計	536,681
受取利息及び配当金	100
利息の支払額	△ 86,031
業務活動によるキャッシュ・フロー	450,750

業務活動によるキャッシュ・フロー

外部からの資金調達に頼ることなく、どのくらいの資金を本来の業務活動で獲得したかを表したもので、主に収益的収支(3条予算)の内容を表します。

→ + (プラス) であることから、業務活動が良好であることが分かります。

2 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 817,596
国庫補助金による収入	370,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 447,596

投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得など、将来の利益及び資金獲得のための設備投資にどのくらいの資金を支出したか、また、その資金をどのくらい回収したかを表したもので、主に資本的収支(4条予算)の内容を表します。

→ △ (マイナス) であることから、積極的に投資を行っていることが分かります。

3 財務活動によるキャッシュ・フロー	
企業債による収入	455,000
企業債の償還による支出	△ 545,001
他会計からの出資による収入	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 90,001

財務活動によるキャッシュ・フロー

業務活動や投資活動を維持するために、どのくらいの資金を調達し、また、返済したかを表したもので、主に資本的収支(4条予算)の内容を表します。

→ △ (マイナス) であることから、借入残高が減少していることが分かります。

資金増加額 (又は減少額)	△ 86,847
資金期首残高	524,646
資金期末残高	437,799

←貸借対照表 (B/S)

現金預金と一致します！

損益計算書 (P/L : Profit and Loss statement) の解説

令和8年度 葉山町下水道事業会計予定損益計算書

(令和8年4月1日から令和9年3月31日まで)

(単位 千円)

1 営業収益			
(1) 下水道使用料	348,487		
(2) その他営業収益	37,889	(ア)	386,376
2 営業費用			
(1) 管路費	38,085		
(2) ポンプ場費	211		
(3) 処理場費	326,068		
(4) 普及促進費	3,569		
(5) 業務費	15,388		
(6) 総係費	57,109		
(7) 減価償却費	793,869		
(8) 資産減耗費	31,340		
(9) その他営業費用	27,273	(イ)	1,292,912
営業利益		(ア) - (イ) = (ウ)	△ 906,536
3 営業外収益			
(1) 受取利息及び配当金	100		
(2) 他会計補助金	580,000		
(3) 長期前受金戻入	411,254		
(4) 消費税還付金	20,000		
(5) 雑収益	6	(エ)	1,011,360
4 営業外費用			
(1) 支払利息及び企業債 取扱諸費	86,031	(工) - (オ)	
(2) 雑支出	1	(オ)	86,032
経常利益		(ウ) - (カ) = (キ)	18,792
当年度純利益		(キ)	18,792
前年度繰越利益剰余金		(ク)	0
その他未処分利益剰余金変動額		(ケ)	741,411
当年度未処分利益剰余金		(キ) + (ク) + (ケ) = (コ)	760,203

○ 『損益計算書』とは・・・？

1事業年度の経営成績を明らかにするために、その期間中に得たすべての収益とこれに対応するすべての費用を記載した報告書です。

○ 『損益計算書』から分かることは・・・？

どんな経営活動によってどれだけの経営成績を上げたかを知り、それに基づいて過去の経営を分析し、将来の方針を立てることが可能となります。

① 営業利益

本業による利益

通常の業務活動の損益の結果が表示されます。

② 経常利益

経営努力の成果を示す利益

通常の業務活動に関する損益に加えて、資金調達等に関する損益の結果が表示されます。

③ 当年度純利益

最終的な利益

1年間のすべての損益の結果が表示されます。

3つの段階で利益を把握

$$\text{利益} = \text{収益} - \text{費用}$$

その他未処分利益剰余金変動額の内訳

- ・ 令和7年度決算見込み利益剰余金：741,411千円・・・①
- ①のうち、132,359千円を令和8年度予算の補填財源・・・②
- 『減債積立金』とし、令和8年度の企業債償還の財源とします。
- (令和8年度下水道事業会計予算：第4条・第11条記載)

貸借対照表の当年度未処分利益剰余金と一致する！！

貸借対照表 (B/S : Balance Sheet) の解説

参考資料 4 / 4
 予算特別委員会
 下水道課
 令和8年2月26日

令和8年度 葉山町下水道事業会計予定貸借対照表
 (令和9年3月31日)

(単位 千円)

○『貸借対照表』とは・・・？

一定の時点(年度末)における事業が保有する財産の残高を表した報告書です。

○『貸借対照表』から分かることは・・・？

資産は事業の経営の活動手段である資金の運用形態を示し、負債・資本においては、その資産がどのようにして得られたかという調達源泉を示しています。これにより、事業の財政状態(ストック)を把握することが可能となります。

資産の部

土地、建物、構築物、現金預金など、企業の所有財産が記載されています。

【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	21,882,394	固定負債	5,748,787
有形固定資産	21,882,394	企業債	5,748,787
土地	156,320	流動負債	966,842
建物	969,356	企業債	528,936
構築物	23,058,317	未払金	431,913
機械及び装置	4,038,183	引当金	5,993
車両及び運搬具	3,782	繰延収益	10,659,543
工具器具及び備品	7,061	長期前受金	13,983,800
減価償却累計額	△6,410,675	収益化累計額	△3,324,257
建設仮勘定	60,050	負債合計	17,375,172
流動資産	555,287	【資本の部】	
現金預金	437,799	資本金	4,224,590
未収金	117,578	剰余金	837,919
貸倒引当金	△90	資本剰余金	77,716
		利益剰余金	760,203
資産合計	22,437,681	資本合計	5,062,509
		負債・資本合計	22,437,681

負債の部 29.93%
 (前年度比 ▲0.17)
固定・流動負債

企業債など支払義務があるものが記載されています。

負債の部 47.51%
繰延収益
 (前年度比 0.00)

資産(構築物)の取得のために交付された補助金など、支払義務がないものが記載されています。

資本の部 22.56%
 (前年度比 +0.16)

資本金や事業で得られた利益など、返す必要のない資金が記載されています。

★注目ポイント

貸借対照表の右半分(お金の集め方)のバランスを見てみましょう!

前年度と比べ、支払義務があるものの割合が減り、逆に支払義務がないものの割合が増えていることが分かります。

このことから、財政状況は良好な方向に向かっていることが分かります。

左半分は『お金の使い方』

企業の財源がどのような状態で、いくらあるか把握できます。

右半分は『お金の集め方』

企業の財産がどのような財源でつくられたか把握できます。